

巻頭言

歴史は廻る

本誌を御覧の方々の中には、中国古典に御興味のある方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで、まず1題。

「一年之計莫如樹穀，十年之計莫如樹木，終身之計莫如樹人」 (管子)

春秋時代，斉の宰相，管仲（管子）によります。「一年の計は穀を樹うるに如くは莫し。十年の計は木を樹うるに如くは莫し。終身の計は人を樹うるに如くは莫し」，あまりにも有名です。次に，もう1題。

「曾子曰，君子以文会友，以友輔仁」 (論語／顔淵篇)

孔子の言葉を纏めた論語によります。「曾子曰（いわ）く，君子は文をもって友を会し，友をもって仁を輔（たす）く」，これも有名です。「以文会友」は，川端康成がノーベル賞受賞を記念して母校に贈った揮毫の書の言葉として御存知かもしれません。

SASJは1995年3月に設立され，今年で14年目を迎えました。本誌を定期的に刊行し，PSAなど世界に通用する国際会議を開催するなど大きくかつユニークに育っています。これも，SASJを設立された先輩諸氏の計であると，改めて感服する次第です。私事で恐縮ですが，入社してから表面分析に関わる仕事を始め，会社の中ではある程度右左の区別がつくようになった頃，上司に連れられ，研究会の前身であるVAMAS-SCA Japanの会合に参加しました。ほどなく，SASJが発足し，そのまま継続してお世話になっています。その間，十数年。先輩諸氏の樹えた木は，着実に根を張り，枝を成長させていると実感しています。新たにワーキンググループを立ち上げたり，海外との新たな連携を進めたりと，現在，第一線でSASJを力強く牽引されている方々も，きっと同じように感じていらっしゃるのではないのでしょうか。

その根源は，SASJの主要なアクティビティのひとつである年3回の定期会合にあると考えます。私達は，（詩書礼楽ではなく，）表面分析という「文事（学問）」を通じて，SASJに会し，新人からオーソリティまで，官学あるいは業種を超えて，議論することができます。このユニークさは，他の学協会に類を見ないとよく言われます。それぞれの所属から離れて，直接の利害関係なく，共通の「文事」でつながるからこそ，深く理解し合い，打ち解けあえるのではないのでしょうか。かといって，ありがちな仲良しクラブに留まることは決してありません。議論を通じて，個々人の所属業務に活かせる知識を得るだけでなく，科学者，技術者として一生涯通用する仁徳を獲得するに至るといっても過言ではないでしょう。

この4月から，年3回の定期会合を取りまとめる講演委員長の重責を仰せつかりました。今後，本誌との連携も深めながら，アクティビティの足跡を確実に残す努力をして参ります。そして，これまで先輩諸氏から受け継いだ有形無形のものを次の世代の方々に伝えていければと考えています。皆様，どうぞよろしくお願い申し上げます。最近の会合では，新たに若い方々の参加が増え，活動や議論も活性化しています。是非，継続して参加してもらえるよう，そして，十年後には，私たちに替わって研究会を背負って立ってもらえるよう，ここはひとつ，一計と案じるとしまししょうか。

講演委員長 住友金属工業株式会社 荒井正浩